

境内史跡図



- ④ **【本堂】** 昭和20年の米軍空襲により、当寺は山門と鐘鐘楼を残して焼失しました。現在の本堂は52世の密禪定行和尚が托鉢行で再建されました。
- ③ **【山門】** 現在の総門は寛永18年建立。四脚門という形式で、装飾的な彫刻が少なく彫りが浅いなど、江戸初期の特徴がよくあらわれています。
- ② **【梵鐘】** 古来の鐘は関ヶ原の乱の際、津城を攻める石田三成軍に鉄砲の弾として溶かされました。現在の鐘は延宝8年につくられたものです。
- ① **【芭蕉文塚・二日坊杖塚】** 全国的にも希少な芭蕉の文塚と、その建立者である俳人・二日坊の杖塚が並んでいるこりです。

年間行事

- 1月1日～3日 新年三朝祈祷
- 2月11日 薬師如来大祈祷会
- 3月 彼岸中日後日曜日 春季彼岸会大法要
- 7月16日 夕刻 孟蘭盆施食会法要
- 9月 彼岸中日後日曜日 秋季彼岸会大法要
- 12月31日 深夜 除夜の鐘

寺内行事

- 坐禅会/毎週日曜日 午前8時～9時頃まで
- 禅茶会/月末火曜日 午前9時半～正午(会食付2,000円)
- 写経会/第1火曜日 午前9時半～正午(1回1,000円)
- 婦人会/毎月8日 午前10時
- 札 所/西国薬師霊場 34 番札所
芭蕉翁百霊場札所
伊勢の津七福神 大黒天霊場

曹洞宗 塔世山 四天王寺

〒514-0004 三重県津市栄町1-892

☎ 059-228-6797(代)

FAX 059-229-1115

<https://www.sitennoji.net>

塔世山 四天王寺



津インターより車にて10分/津駅より徒歩10分

曹洞禅宗・東方持国

塔世山 四天王寺

Shitennoji Temple



四天王寺の



- ⑤ **【織田信長生母墓所】** 本能寺の変後、津城の織田信包(信長の実弟)を頼って津に身を寄せた土田御前(信長の母)は当地で晩年を過ごしました。
- ⑥ **【藤堂高虎正室墓所】** 古来より知られる寺院であった本寺には、江戸期の領主であった藤堂高虎の妻・久芳院も葬られております。
- ⑦ **【斎藤拙堂墓所】** 津藩を代表する漢学者であり、文章家として知られる斎藤拙堂の墓所は、境内を見渡す丘の上に建てられております。
- ⑧ **【堀江欽次郎墓所】** 日本写真の開祖といわれる上野彦馬と共に、写真術の研究に取り組んだ堀江欽次郎は、師である斎藤拙堂の横に眠ります。

千年の歴史 - 聖徳太子建立 -

塔世山 四天王寺は曹洞宗の禅寺です。推古天皇の勅願寺であり、聖徳太子によって建立されたと今に伝わります。

時は用明天皇の御代、守屋大連の軍に3度敗れた若き日の聖徳太子は、戦陣で四天王尊像を刻み、「もし、次の闘いで私が勝利を得られたら、四天王を祀る寺塔を建立するから勝利をお与えください」と誓願をたてました。その結果、守屋の軍を破ることができた太子は、誓願どおりに四つの四天王寺を建立しました。その一つが本寺であると伝えられています。

本寺の境内からは奈良期の古瓦も出土しており、建立から千年以上もの歴史を有することが確かめられています。奈良・平安時代には、この地方で最も繁栄した寺院だったと考えられています。

藤堂高虎ゆかりの寺

その後、度々の兵乱や戦火で焼失と再興を繰り返した当寺でしたが、元和5年(1619)に津城に入国した藤堂高虎が改築を行い、2代目藩主の藤堂高次が寛永14年(1637)に寺領を寄進したことにより、往時の寺勢をとりもどしました。現在の本堂は、第2次世界大戦末期の空襲で焼失した後、52世の定行和尚が托鉢行にて再建されたものであり、津市内有数の寺院の一つとなっております。

また境内には、信長の生母や藤堂高虎夫人、武将や学者、文人たちの墓、芭蕉文塚や文学碑など、歴史を彩る説話や貴重な文化財が数多く伝わっております。

寺宝及び関連物

聖徳太子像(重要文化財)

鎌倉時代 絹本着色 112×39.5cm

聖徳太子孝養の図といわれるもので、両手で金色の柄香炉を持って立ち、父・用明天皇の病氣快復を祈願する姿と伝えられます。顔はふっくらとし、髪は両耳の上で赤い紐をみずらに結び、唇には朱がさされて描かれ、全体に渋みのある彩色が用いられていますが、袈裟などの文様は金や赤で描かれて、太子の凛々しさを引き立てています。



薬師如来像(重要文化財)

像高 65cm 一木割削造 彫眼 漆箔

檜の一木造りで、平安期の承保4年(1077)に仏師・定朝により造られたものです。像の胎内には空洞が設けられており、そこには当時の寺領を記した文書や願主・物部美沙尾ら38名の寄進者名、扇・櫛・鏡など25点の遺物が納められていました。肩がやや怒り肩で膝の高さも高く、衣紋の線が強く硬いなど、定朝様式とは異なる刀法が見られます。



一光三尊仏

白鳳期 押出仏 銅板

本寺の背後に広がる愛宕山の鳥居古墳から出土した押出仏は、7世紀の制作とみられ、後の研究によって奈良の法隆寺に伝わる押出仏と同一の型から造られたものであることが明らかになりました。



山門(市有形文化財)

江戸時代 幅3.8m 奥行3.1m

現在の形に再建されたのは寛永18年(1646)。2代目藩主藤堂高次の時代。使われている材木が太く、江戸期の山門らしい均整のとれた姿をのこしています。

花屋寿栄禅尼の墓(織田信長の生母)

本寺に織田信長の母親・花屋寿栄禅尼の墓がありますのは、信長の弟・信包(のぶかね)が津城主として近隣を治めていたためであり、本能寺の変の後、信包は母を津に呼び寄せて共に過ごし、亡くなると本寺に手厚く葬りました。

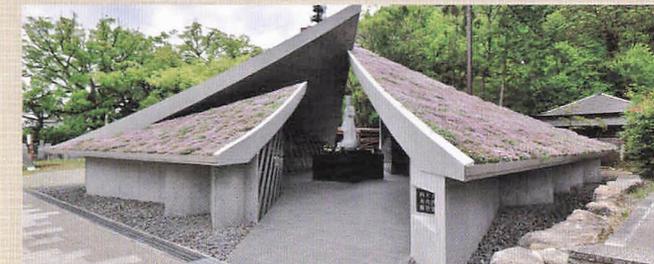


坐禅場



当寺では、禅寺の雰囲気味わっていただけるように1時間半程の禅体験コースを実施しております。参加費/お1人様 1,000円(お抹茶・お菓子代込) 予約制/059-228-6797

永代供養観音堂



お墓の跡継ぎがない方へ安心の観音堂です。宗旨宗派は問いません。いつでもご自由に一般のお墓と同じようにお参りいただけます。お問い合わせは、お寺まで。

聖徳太子の救世観音と御朱印



聖徳太子没後1400年に建立された救世観音です。毎月変わる御朱印を通じて四季折々の自然を感じてお参りください。祈りを100年先へと繋ぐ「大観音立像」事業へのご理解とご協力よろしくお願いいたします。